

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
男衾駅周辺地区

令和4年3月

埼玉県寄居町

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	地区内居住人口	人	1,986	2,000	1,824	確定 ●	△	あり	1,723	R2年10月	△	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	居住人口は減少したものの、下げ止まりがみられる。また、世帯数が増加しており、単身者の増加が考えられ、定住可能な住宅の供給が課題である。
指標2	踏切自動車交通量	台	331	280	361	確定 ●	△	あり	285	H31年4月	△	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	送迎車両の西口利用が増えたことにより、踏切交通量が減少し、東口の混雑が緩和された。
指標3	自由通路通行者数	人/日	0	2,300	1,503	確定 ●	×	あり	1,207	R3年12月	×	同地区内に開設された新駅の影響やコロナ禍による在宅勤務の定着により駅利用者が減少し、自由通路通行者数が減少した。 <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	自由通路利用者が事後評価値より少ない確定値となったが、新駅(みなみ寄居駅R2.10開設)の利用者数958人を考慮すると、未達成ではあるが評価できる。
指標4						確定 ●		あり		R 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
指標5						確定 ●		あり		R 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	大雨による駅周辺道路の冠水確立	%	100	/	確定 ●	/	/	/	/	R 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	大雨が降った時に河川の洪水がなくなった。
その他の数値指標2			/	/	確定 ●	/	/	/	/	R 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3			/	/	確定 ●	/	/	/	/	R 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	周辺道路の冠水率の低減	河川流路内の草刈等を実施。一部流路の敷打ちを実施。	流路内の土砂の堆積を最小限にすることができていることから、流水断面が確保され、河川のオーバーフロー等による道路冠水は発生していない。	河川内の草刈りや堆積した土砂のしゅん汲及び流路の敷打ちを実施し、河川断面を確保する。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	男衾駅東口駅前広場、東口通り線及び町道4163号線外の早期開通	男衾駅東口駅前広場、東口通り線については、用地買収を行い整備を行った。町道4163号線外については、一部未買収箇所があり、土地所有者との用地交渉を行った。	男衾駅東口駅前広場、東口通り線については、完成し一般車やタクシーが駅前広場に乗り入れられるようになり、利用者の利便性が向上した。町道4163号線外については、用地交渉中である。	町道4163号線外については、全線完成を目指し整備を進める。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(精算報告書)

おぶすまえきしゅうへんちく
男衾駅周辺地区

さいたまけん よりいまち
埼玉県 寄居町

令和4年3月

・様式は、A4印刷とすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	寄居町	地区名	男衾駅周辺地区	面積	90.7 ha
計画期間	平成 25 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 25 年度 ~ 平成 28 年度				

目標 大目標:豊かな自然環境と共生し、にぎわいのある都市拠点(地区生活拠点)を形成するとともに、快適な居住環境を有する住宅市街地を形成する。 目標1:駅利用者の利便性の向上 目標2:安心して暮らせる住環境の整備							
目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 ・本町は、都心から約70kmに位置し、関越自動車道花園インターチェンジや事業化が決定した(仮称)寄居PASマートインターチェンジをはじめ、2つの国道と3つの鉄道路線が交わる交通の要衝であるとともに、町の中心部を荒川が流れる、水と緑に囲まれた自然豊かな場所である。 ・本地区は、東武東上線男衾駅を中心とした地区で、周辺には田園が広がり農村住宅が分布している。地域の北部には荒川が流れ、南部には森林地域が存在しており、一部を工業系の土地利用がなされてきている。 ・この工業系の土地利用において、平成18年には彩の国資源循環工場が全面稼働し、平成25年度にはホンダ寄居新工場の稼働開始が予定している。このため、最寄駅となる男衾駅の利用者数の増加が予想される。 ・このような状況の中で本駅は、大正14年に東口のみ開設された古い地上駅で、駅前広場も十分に整備されていないため、朝夕の送迎時には自動車、歩行者等が混在し、渋滞を引き起こしている。 ・また、本駅周辺は、市街地が形成されているが十分な基盤が整備されていないため、適正な基盤整備を進めながら新市街地ゾーンとして良好な住宅地を整備していくことが求められている。 ・本地区を魅力的な住宅地として創出していくためには、都市活動や都市生活に必要な機能を確保し安心して生活できる環境を提供する必要があり、付加価値の高い住宅地の形成を目指していくことが求められている。 ・移動空間としての道路は、南北方向は国道254号に1路線に頼らざるを得ない状況にあるため、男衾駅周辺地区を挟み国道254号との対極となる県道菅谷寄居線の延伸により、南北交通の分散化を図っていくことが必要である。							
課題 ・東口への交通の集中化を解消するため、西口を開設し交通の分散化を図るとともに駅へのアクセス道路を整備する必要がある ・駅東口には田園が残されている部分があり、地域の原風景でもある田園風景を活用して緑豊かな住環境整備が必要である ・駅東口周辺は排水が悪く、以前から水害がおきており、安全・安心な都市生活を確保する治水対策の強化が重要な課題となっている							
将来ビジョン(中長期) ・第5次寄居町総合振興計画後期基本計画 「平成25(2013)年のホンダ寄居新工場の稼働が決定したことから、男衾駅周辺地区の整備を行い、通勤等の利便性を高めていくことも求められています」 ・寄居町都市計画マスタープラン 「土地区画整理事業等による新市街地としての整備の推進を図る」							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		従前値	目標値	
					基準年度	目標年度	
地区内居住人口	人	当地区内に居住する町民の人数	町全体では人口減少傾向ではあるが、駅及び周辺地区を整備し、住環境を改善することにより、当地区が人口減少に陥らない状況を目指す。	1,986	2,000	H23	H28
踏切自動車交通量	台	通勤通学時(7~9時及び17~19時の4時間)の駅北側踏切における自動車通行量	西口開設により、東口からの交通分散効果を示す指標として、駅北側踏切における自動車交通量の減少を目標とする。	331	280	H24	H28
自由通路通行者数	人/日	自由通路の通行者	駅舎、自由通路の整備を行い、自由通路東西の通行者数の増加を図る。	0	2,300	H24	H28

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1: 駅利用者の利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに西口を開設し、自由通路及び駅へのアクセス道路を整備することにより自動車交通の分散化を図る。 ・子供から高齢者及び身障者などにやさしく、誰もが安心して安全に利用できるようバリアフリー化に取り組む。 ・駅は多くの利用者にとって町の玄関であるため、駅舎及び自由通路等関連する施設整備に併せてイメージアップを図る。 <p>整備方針2: 安心して暮らせる住環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適性ととともに安心して生活できる安全性・防災性の高い市街地環境の創出が求められており、誰もが安全で安心して利用する都市基盤施設の整備を図る。 ・生活する場において、防災性の高い都市基盤整備(ライフライン等)を行い、突然の自然災害等に対しても安全で安心して暮らせるまちづくりをめざす。 ・美しい都市景観の形成に配慮し、自然と共生による心の豊かさ、ゆとりやうらおいを感じられるような、自然環境(田園風景・親水空間)と調和するアメニティの高い街並み景観の形成に資するまちづくりを目指す。 	<p>《基幹事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男衾駅東西自由通路、駐輪場(地域生活基盤整備)、公衆トイレ(高質空間形成施設) 3・4・23男衾駅西口通り線、3・4・22男衾駅東口通り線 <p>《提案事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男衾駅舎築造 <p>《基幹事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町道4163号線外(道路) <p>《提案事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明神川準用河川整備
<p>その他</p> <p>○男衾駅周辺地区のまちづくり</p> <p>本地区の健全なまちづくりを推進するため、平成16年に地元住民を主体とする「男衾駅周辺地区まちづくり協議会」が発足した。協議会からは、土地区画整理事業に対する抵抗感が強く、現況基盤を生かした線的整備手法が提案されている。町では協議会の提案を受け、平成14年に決定した都市計画を見直し、現地形を生かし、事業コストが少なく、早期整備が可能な計画を予定している。</p>	

